

妙成寺

妙成寺は、石川県とその周辺県を含む北陸地方における仏教の宗派、日蓮宗の本山である。緑あふれる広大な地に建てられたこの寺には、1618 年に完成したシンボリック的存在となる、五重塔が佇んでいる。

現在、妙成寺に建つほとんどの建造物は、1600 年代に建立された。大規模の火事を逃れたため、400 年経った現在でも残っている。寺の建造物は、加賀藩（現在の石川県とその周辺）の藩主・前田家の支援によって建立された。初代前田家当主である利家（1538–1599）は、妙成寺で建築を開始。彼の功績は 1593 年から僧侶の住居になっている寺に残る最も古い建造物にも及んでいる。3 代目藩主・利常（1594–1658）は、本殿や塔など多くの建造物を建立し、母に捧げた。

妙成寺は 1294 年に、日蓮宗の日蓮（1222–1282）の弟子である、日像上人（1269–1342）によって建立された。日蓮宗の教えで注目すべきは、人々の中に仏性があると説いている点で、それは今生で悟りを得る可能性がすべての人にある、ということを意味する。